

2010年 4月 15 日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2011年4月30日】

団体名: 特定非営利活動法人ナチュラルフェローズ

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

地域の森を知ろう、伝えよう。

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

温暖化対策・ヒートアイランド現象の緩和装置として森は見直されてきているが、森とどう付き合うかについて、自分なりの考えを持たない人が多いことに気づいた。昨年度実施したプログラムに引き続き、「森と人との関わりを考える」ことをテーマに掲げ、参加者に考えてもらい、再び森が生活の一部となることを目的とする。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

場所: 関係者会議室(ワークショップ)、青梅の杜(クラフト)、応現院(写真展)

○ワークショップ(7月20日) 13:00~16:00 森の恵みと人々の工夫の講義と生活の中の森の恵みについてワークショップ形式で話し合った。

○クラフト(9月27日) 9:30~16:00 森の材を使い、日常生活品を作った。

○写真展(11月29日から12月20日) 10月から準備を行い、3週間程度の展示を行った。

今まで、森を知る、自分の考えを持つ、それを表現する(写真)方法をやってきました。今回はそれを発信することを行った。また、「作る」作業を通じてさらに森との関係について理解を深めてゆく内容とした。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

今までのプロジェクトのゴールとして最終的に写真展を行い、自分の思いを形にして発表することとした。その過程でそれぞれが自分の思いを整理できたとともに、人に伝えるための工夫について考え実行できた。

【工夫点】はじめにワークショップを実施して思いの整理を行うとともに、趣旨説明版の文面を皆で考えた。それにより明確に思いを整理できた。

【効果】文章、工作物、写真の3つを使い各自思いを表現できた。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

3カ年にわたりご支援いただきありがとうございました。当初色々な不安もありましたが、そのようなことは杞憂にすぎず、良い活動ができたと感謝しております。当初はフィルムの入れ方もわからない方も多数おられ、どうなることと心配しましたが、年を重ねるごとに皆カメラの虜になり、それぞれの個性を表現できるまでになりました。現場に行き、感じたことを人に伝えるという一連の流れは、普段あまり行っていないことであり、特に人に伝える行為はなかなかチャンスもなく、最後に応現院での写真展を実施できたことは参加者の心に残るものとなりました。今後も分野を限定せず、地域密着型の助成活動を是非お続け頂きたいと思っております。ありがとうございました。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

2. 第2回活動（クラフト）

状況写真



3. 第3回活動（写真展）

設置作業



設置状況

